



## 人権教育講演会

8月4日、千代川公民館において下妻市人権教育講演会が開催されました。

この講演会は、ジャーナリストの石川結貴さんを講師にお迎えし、「ヤングケアラー「家族を背負う」子どもたちの現状と課題」をテーマに行われました。

ヤングケアラーとは、病気や障害を持つ家族のために、家事、介護、幼い兄弟の世話などをする子どもや若者を言いますが、支援に結びつかないまま、一人で家族を背負う現状など、ヤングケアラーについての実態や解決策等について考える機会となりました。

講師の石川さんは、「支援が必要な子どもたちに対し、大人が無理やり聞くことは子どもを追い詰め傷つけてしまうことになる。言いたくなければ言わないことも子どもの権利。言いたくなったらいつでも相談に乗れるようにしておくことが大切」と話していました。

☎ 福祉課

## カードゲーム「2030 SDGs」体験会

8月8日、下妻市役所において市主催のカードゲーム「2030SDGs」体験会を実施しました。

体験会には、市のSDGsパートナー制度に登録している企業や団体をはじめ市内の高校に通う高校生や一般の方など24人が参加しました。

このゲームは、SDGsの目標を達成するため、2030年までの道のりを体験するゲームです。現実の世界と同じように、異なる価値観を持った人たちと協力し合い、経済や環境、社会といった、日々変化する世界の状況を、好転させていくことを目指すなかで、参加者は「なぜSDGsが必要なのか」、「SDGsがあることで何がかわるのか」を体感しました。

参加した高校生は、「自分のゴールを達成することは難しかったが、知らない分野への理解が深まった」と話していました。

☎ 企画課



## 下妻市、常総市、八千代町交流連携・災害時の相互応援協定を締結

～「競争」から「共創」へ～



左から神達常総市長、菊池下妻市長、野村八千代町長

7月26日、下妻市、常総市、八千代町の3市町は、交流連携協定と災害時における相互応援に関する協定をそれぞれ締結しました。

交流連携協定は、近隣自治体という強みを生かし、市町民の交流促進、移住定住促進、農業・観光振興、災害時の相互応援などさまざまな分野について相互に連携・協力し、持続可能な自治体運営、地域課題の解決、さらには地域の活性化および住民サービスの向上を目的とするものです。

災害時における相互応援に関する協定については、デジタル技術を活用した支援や派遣職員は被災市町の指揮下のもとで活動することなど、災害時に柔軟かつ迅速な対応ができるような内容です。

この日、下妻市役所で行われた締結式には、菊池博・下妻市長、神達岳志・常総市長、野村勇・八千代町長が出席し、協定書に署名を行いました。

菊池市長は「共通課題の解決はもとより、住民サービスの向上や地域活性化を目指していきたい」、神達常総市長は「広域連携して良いところを共有しながら、人口減少を少しでも食い止めていきたい」、野村八千代町長は「本日の協定締結を契機に、住民、職員間での交流を深める機会を増やし、3市町での課題解決への取り組みを円滑に進めていきたい」と今後の取り組みに期待を込めました。

今後は、交流連携協定に基づき、相互に連携し、地域課題の解決や地域活性化を目指していきます。

☎ 企画課

## カルビー株式会社がしもつま中央工業団地へ

8月23日、カルビー株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長兼 CEO：江原 信）と一般財団法人下妻市開発公社（代表理事：下妻市長 菊池 博）は、「しもつま中央工業団地」の用地取得に係る予約契約を締結しました。

新工場の敷地面積は、カルビーグループ国内最大規模となる約19haで令和10年度の操業開始を目指しています。昭和50年から市内半谷地内で操業する下妻工場は、将来的に機能移管する計画で、需要が拡大している「じゃがりこ」への対応など、関東エリアの生産体制を強化します。

江原社長は「創業の地である広島で建設中のせとうち広島工場を西日本の主要拠点、下妻市に建設予定の新工場を東日本の主要拠点として、次世代型の最新鋭工場を目指したい」と力強く語りました。

市は、近年多くの大手優良企業の誘致に成功しています。今後は、誘致した企業との連携、従業員の移住・定住など、地域経済の活性化に繋げていく考えです。

「しもつま中央工業団地」の残り2区画は、公募により10月から11月に申込みの受付を行います。

☎ 企画課



左から菊池市長、江原社長